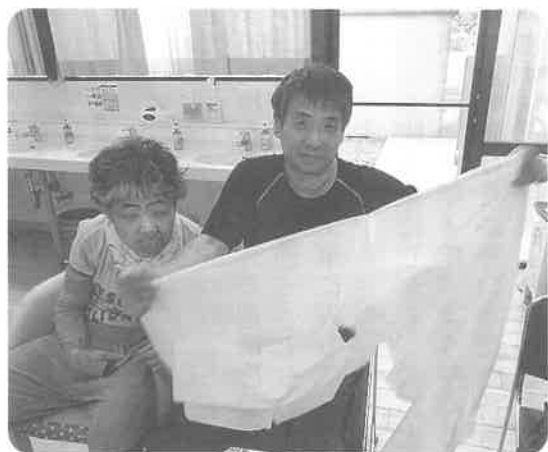




くれています。半年の時間をかけて、力が抜けた状態でのリハビリがおこなえるようになってきました。

順番にリハビリをする仲間の中には、普段はずっと座っているのに、職員が介助をすると上手に足を出し歩いてくれる仲間がいます。歩けないのではなく、歩きたいけれど歩く機会がない。一人だと歩けないけれど、そばで支えてくれる人がいることで歩くことが出来る仲間のリハビリの機会を作ること、とても大切だと感じます。

仲間が高齢化、障害が重度化する中で、どのように仕事を保障していくのか。また、仕事とリハビリをどうバランス取りながらおこなっていくのかが課題と感じています。

職員間での議論も必要でしたが、仲間たちが「自分たちのことを自分たちで話す機会」を大切にするため、「仲間給料委員会」を設立しました。

自分たちのことを自分たちで

この数年は、コロナ禍ということもあり、熱発者が発生すると、ユニット対応。施設にコロナが持ち込まれていないことが分かるまで、仕事も中止です。ウエスの納品先が規模縮小のため納品量が減ってしまい、収入面でも苦しい現状がありました。でも、太陽の里は独立採算。風のドラゴンで仕事の時間にリハビリをするようになり、仕事量（収入）は更に減り、所属する仲間の給料分を稼ぐことが難しくなっていました。

仕事グループのリーダーの会議で、「リハビリは、物を生産する仕事とは違うかもしれない。でも、仲間にとって必要なこと。きつと他の仲間も必要になるときが来る。そのときに備えて、リハビリをする仲間にも、みんなと同じ給料を支給したい」と話しました。風のドラゴンが直面していた、仲間たちのリハビリを保障したいことと、給料を保障したいことについて話をし、賛成してもらいました。

前向きになる一言

給料委員の仲間にも、リハビリをする仲間の給料について聞いてみると「リハビリも大切だよ」といってもらいました。また、「自分たちの給



太陽の里職員 松崎 空木

料やボーナスについて話すことってどう思う」と聞いたときに、「難しい」と答えたあと、少し考えて「大事だと思う」と答えてくれました。話す内容も難しく、話し合いの進め方に迷っていたときの仲間の言葉は、「そうだよね。また話そうね。分かりやすく伝える工夫しなくちゃな」と、前向きになるのに充分な一言でした。

悩むことや、迷うことは多いですが、仲間の意見に耳を傾けること。仲間の姿から「本人は、こうしたい」と思っているのかな」と想像すること。職員間で意見を交わし、仲間の想いを言葉にし、形にすること。仲間の要求や思いを大切にしながら「仲間の仕事について」みんなと一緒に悩み、考え、取り組んでいきたいと思っています。

おひさま通信

労働について

* 太陽の里 *

大切な労働について考える

現在の太陽の里は、生活介護の仲間も合わせ70名ほどの仲間たちが、6つの仕事グループに分かれています。「風のドラゴン」は、ウエス作り。「POPO」は、さわりや絵画などの創作活動。「きれいな八百屋さん」は、野菜作りとバレンタイン販売。「サンシャインファーム」は、堆肥作りとカレンダー販売。「きれいな雑貨屋さん」は、納豆菌・乳酸菌などの微生物を利用し作るマイエンザ作り（主に消臭剤として活用）。「ニューホームカフェ」は、ワッフル作り。また、法人内外の通所施設へ通っている仲間もいます。

10時になると放送が入ります。仕事の有無。仕事に配置される職員がわかります。その放送をきっかけに、仲間たちはユニットの玄関から一度外に出て、それぞれの仕事場へと向かいます。

放送をきっかけに

風のドラゴンの仲間は、仲間同士がみんなの顔をみられるように大きな円になって集まります。出欠を取る際、司会が仲間の名前を呼ぶと、仲間の近くにいる職員が仲間の手を一緒に上げたり、仲間呼びかけ、一人ひとりにスポットライトをあて、「これから仕事だよ」を伝えます。朝の掛け声をかける仲間が、職員の掛



け声に合わせ、手を「下、下、上」に大きく振り、皆で「エイ、エイ、オー」をすると仕事が始まります。

仕事が始まると、順番にウエス裂きをおこないます。職員と仲間が向き合って仕事をする中で、「出来たね」を一緒に感じる事が出来るように、職員がフェイスイシールドを活用するなどの対策をしています。

ハサミで切れ目を入れておけば、自分で切れ目を探して裂ける仲間。ハサミを使って器用に仕上げをしてくれる仲間。自分の順番が来るまで半分寝ている様子なのに、「シーツ裂きしようか」と声をかけると、両手でシーツを裂き、出来ると「ハイ」と裂いたウエスを渡してくれる仲間がいます。受け取りながら「ありがとうございます、お疲れ様」と声をかけると得意げな表情を見せてくれます。一人ひとりの仲間に向けた工程があるため、ウエス仕事をおこなっています。昼食後は、一休みして、午後の仕事です。午後は、仕事をする仲間と、リハビリをする仲間に分かれます。

リハビリの位置づけ

もともと仲間のリハビリは、棟で過ごす時間の中でおこなっていました。そのため仕事は、一日を通しておこなうことが出来ていました。しかし、リハビリが必要な仲間が増え、棟で過ごす時間だけでは、なかなか実施しきれなくなっていました。

リハビリが必要な仲間は、特に風のドラゴンに多く、仕事の時間の中で、リハビリをおこなう環境と体制を整えることが必要になりました。

リハビリベッドを買い揃え、風のドラゴンの職員を配置することで、午後の時間のリハビリが実施できるようになりました。その仲間たちは、今までの半分くらいしか仕事をする機会がありません。仲間は、仕事をしたいのかも。でも、リハビリも大切なこと。『本人は、どう思っているんだろう』ということは、大きな悩みでした。

半年の時間をかけて

風のドラゴンでのリハビリを始めた頃。ある仲間は、リハビリベッドで力を抜きゆっくり休むことが出来ず、力が入った状態で、上半身だけ起き上がっていました。それが今では、ベッドの上でウトウトして、気持ちよさそうに力を抜きリラックスして